

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年6月1日現在
(専技情報より抜粋)

◇早生水稲(夢つくし、コヒカリ)◇

田植え後、多雨で経過したため生育はやや軟弱徒長です。昨年度多発したスクミリンゴガイの被害は少ないです。

4月下旬植は田植え後40日頃に有効茎数が確保され、6月5日頃に中干し開始時期となる見込みです。中干しは有効茎確保を確認して開始します。

スクミリンゴガイの被害防止のため、田植え後3週間程度は浅水管理を実施しましょう。

雑草が多い場合には、中後期除草対策を実施しましょう。

◇普通期水稲◇

(夢つくし、元気つくし、ヒビカリなど)

田植えは、山ろく地では5月中旬から開始しました。麦の作付けがない平坦地では5月下旬から開始しました。

降雨が多く、苗の徒長は見られますが、病害などの発生は少ないです。

本年は、ウンカ類の飛来が平年より4週間程度早く5月10日(昨年度5月18日)に確認しました。

平坦地の田植えは、「夢つくし」が6月上中旬、「元気つくし」が6月中下旬、「ヒノヒカリ」が6月下旬「実りつくし」が6月中旬にピークとなる見込みです。

育苗では、出芽期間中に高温とならないように、温度管理に注意しましょう。

田植え後は浅水管理を徹底し、活着促進と初期生育の確保を図りましょう。

ウンカ類の飛来時期が早いいため防除対策を徹底しましょう。

◇麦類◇

大麦・裸麦の収穫は、5月28日頃までに終了しました。小麦の収穫は平年より非常に早く、「シロガネコムギ」、「チクゴイズミ」は5月22日頃から「ラー麦」は5月26日頃から開始しました。

穂数は平年並み～やや多いですが、小麦を中心に5月の降雨により倒伏が発生し、一部では穂発芽も見られます。収量は、平年並み～やや多い見込みです。

C E等の集荷施設は、計画的な荷受け体制を整えましょう。

収穫は、適期に速やかに行いましょう。倒伏や穂発芽のみられるほ場は、別刈りを行いましょう。

特に、穂発芽しやすい品種（シガ^{シガ}和^和岐^岐、ミミカ利）は刈り遅れにならないよう注意しましょう。

ほ場への有機物の還元のため、麦わらはすき込みましょう。

◇施設キュウリ◇

促成および半促成作型ともに出荷終盤であり、6月末～7月上旬に終了見込みです。出荷量が多い中、平年より梅雨入りが早く、曇雨天が続いているため、草勢が低下傾向です。

病害虫は、べと病、褐斑病、つる枯れ病等の病害やセンチュウの被害が発生しています。一部産地では、黄化えそ病や退緑黄化病が発生していますが、昨年と比べて少ない状況です。

草勢維持と収量確保のため、6月末まで継続してかん水、施肥を行いましょう。べと病や褐斑病の病害対策を徹底しましょう。

収穫終了後は、ハウスを閉め込み、アザミウマ類やコナジラミ類を死滅させましょう。

センチュウ対策として土壌消毒を徹底しましょう。

◇ナシ◇

加温ハウス・トンネル「幸水」は、結実・肥大は概ね平年並みです。加温ハウスは、6月下旬から出荷の見込みです。

露地「幸水」「豊水」の開花は、前年・平年より10日程度早く、結実は、3月下旬の交配期の天候に恵まれ概ね平年並みですが、肥大は並み～やや小さく推移しています。

病害虫は、黒星病の発生が早く、発生量がやや多いです。

今後、梅雨の長期化により、日照不足等による病害発生、生育不良等が懸念されるため、黒星病対策および新梢や着果管理作業の徹底を図りましょう。

生育の前進化、梅雨期の天候等に留意し、適正着果数への仕上げ摘果、誘引・摘心等の新梢管理を徹底しましょう。果実品質・肥大の向上および次年度の花芽確保に努めましょう。

黒星病の後期感染期を迎えるため、病害果の除去等の対策を徹底しましょう。

◇イチジク◇

加温ハウスの「蓬莱柿」及び「とよみつひめ」の出荷は前年よりやや早く、それぞれ4月中旬、5月中下旬より開始しました。果実品質は概ね良好です。

無加温ハウスの「とよみつひめ」の展葉は10～12枚前後で果実肥大期を迎えています。

露地「とよみつひめ」の発芽は、3月下旬～4月上旬で前年・平年並み～やや早いです。その後の生育は、寒暖差等の影響でやや緩慢になり、現在、前年並みの展葉6～8枚程度で着果期を迎えています。

加温ハウスは、適期収穫を徹底しましょう。

乾燥が続く場合は、ハダニ類、アザミウマ類の対策を徹底しましょう。特に、施設内の温度上昇による成熟異常果の防止のため、水分管理、換気に注意しましょう。

露地では、黒葉枯病や疫病など主要病害の感染期に当たるため、対策を徹底しましょう。

◇施設ギク◇

秋ギク「神馬」等の出荷は5月下旬で終了しました。夏秋ギク「精の一世」の出荷が開始されます。

販売単価は、緊急事態宣言の有無により変動幅が大きく、不安定となっています。ハダニ類、アザミウマ類の発生は少ないが、白さび病の発生がやや多く注意が必要です。

施設内の温度上昇による葉焼けを防止するため、水分管理や換気に注意しましょう。

梅雨入りが早かったことから、秋ギクは、親株数を十分に確保し、予防散布を徹底して質の高い「挿し穂」を確保できるように留意しましょう。

◇豚・鶏◇

豚枝肉価格は、緊急事態宣言の発令後も前年のような巣ごもり需要を見込んだ特需がなく、GW時期の行楽需要もなかったため、先月並みの価格推移で、前年比81%、過去5年比87%と低い水準です。

鶏卵価格は、鳥インフルエンザの影響が続いて供給不足であるため、加工需要の引き合いが強いことに加え、コロナ禍による緊急事態宣言の影響から家庭用需要が増え、前年比146%と高い水準です。

梅雨入りで湿度上昇が懸念されるため、換気送風などの暑熱対策を徹底しましょう。細霧装置は逆に湿度を上げる可能性があるため、稼働の際は温湿度指数（THI）に注意しましょう。

農場の衛生管理や飼料のカビ対策を徹底しましょう。